

第 26 回法医画像勉強会開催後記

令和 6 年 9 月 14 日、広島大学の霞キャンパス(凌雲棟 3 階 R304)にて第 26 回法医画像勉強会を開催致しました。参加人数は合計 77 名(会員 40 名、非会員 27 名、賛助会員 2 名、学生 1 名、スタッフ 7 名)と多くの方にご参加頂きました。

午前中は死後画像読影ワークショップを開催し、15 名のご参加を頂きました。福本(広島大学)より「通常の死後変化について」、槇野先生(東京大学)より「院外死亡例の死後画像」についての講義があり、兵頭先生(福井大学)からは死後 CT の読影の際のポイントについて解説頂きました。その後は各自、代表症例を閲覧し、講師の吉田先生(千葉大学)、村上先生(済生会長崎病院)、槇野先生(東京大学)と質疑応答が行われました。2 時間と短い時間でしたが、多くの質問もあり、有意義なワークショップとなりました。

午後からの第 26 回法医画像勉強会では、まず福本(広島大学)より施設紹介として「広島大学における死因究明教育研究センターの活動報告」を行いました。特別講演は榎垣先生(広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授)に「CT 技術の最前線：原理から AI 画像再構成法、photon-counting CT まで」のご講演を賜りました。CT の基礎から最新技術までわかりやすくご講演頂き、大変好評でした。また、一般演題は 9 演題のご応募を頂きました。いずれも大変興味深いご発表であり、座長の吉田先生(千葉大学)、村上先生(済生会長崎病院)の進行のもと、活発な議論が交わされました。

懇親会はお好み焼きの有名店である「みっちゃん総本店」で行いました。広島の名物を楽しみながら交流を深めることができました。

法医画像勉強会を広島で開催する機会を頂きまして、ありがとうございました。法医画像研究会の会員の先生以外にも広島の放射線診断医や放射線技師、検視官の方々にも多くご参加頂き、法医画像や死後画像の重要性や奥深さについてお伝えすることができたように思います。開催するにあたり、ご協力頂きました運営委員会の先生方や当研究室の先生方、秘書の皆様には深謝致します。

広島大学大学院
放射線診断学研究室
死因究明教育研究センター
福本 航